

no.384

04

2025.4.1

発行：みなと元町タウン協議会 住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1 協和会館内
発行人：片山泰造 編集人：平松日出雄 電話・FAX:078-391-0831 表紙写真：中多英二

季刊 みなと元町 TOWN NEWS

おっ！散歩

- 街角川柳とエッセイ -

花言葉は歓迎
赤き門と居る

詠人 喜康

大丸あたりから元町商店街へ、春の気配を探しながら歩いてみた。その日は、季節の座を、あっさり譲りきれない頑固な"冬"が、くるりとこちらを向いて戻って来ている、ような冷たく寒い日。それでも、目を凝らしてみると、通りの街路樹、コブシの木に、いつのまにか蕾がついている。そして、数日後、あつという間に、潔く開花している。もっと、ゆっくりでもいいんじゃないの、と思いつつ、足元に落ちているコブシの白い花びらを、踏まないように通り過ぎた。

花の後に、赤ちゃんの握り拳ほどの可愛い実がつくの、次の楽しみにしている。

潮崎孝代

相生橋歴史探訪、お薦めです

合資会社ゼンクリエイト 根津昌彦

前号で紹介した、旧居酒屋源べい跡地の工事現場の仮囲いに、全長約15mの横断幕が2025年1月28日より掲出されている。その名は「相生橋 歴史探訪」。ハーバーロード・ワーキングでの令和6年度の取り組みとして、2024年5月のD51前道路の歩行者専用道路化（広場化）に向けた社会実験の後、約半年にわたり検討を進めてきた相生橋PR企画の成果です。

そもそも相生橋って?!と思われる方もいらっしゃるでしょうから、簡単にご紹介します。

明治7年(1874年)5月に、国内で2番目となる鉄道が神戸～大阪間で開通しました。鉄道敷によって分断される西国街道を、人や馬、人力車が渡れるようにと木製の橋を架けました。このように鉄道を跨ぐ橋のことを「跨線橋」と呼び、相生町に架かった橋だったので「相生橋」と呼ばれるようになったようです。当時の市民は、川はないのに橋があると珍しがり、橋の上から蒸気機関車を見物していたそうです。相生橋は、明治22年(1889年)には木製から鉄製に変わり、明治43年(1910年)には、神戸電気鉄道(後の市電)が春日野道～兵庫間に路面電車を開通させ、その路線が相生橋の上を通ったため、省線(戦前の国鉄の呼び名)の上を市電が跨線橋で立体交差するという風景が昭和初期には見られました。





昭和6年(1931年)に省線の高架化に伴い、市電線が平面道路を走るように切り替えられたことで、相生橋はその姿を消すことになりました。

こうしたまちの歴史を神戸駅・元町商店街の間を通り行く人に知っていただき、私たちが現在取り組んでいるまちづくりについても関心を寄せていただこうという目的で、横断幕を設置して早2か月が過ぎました。評判は上々で、2025年2月には、Yahoo ニュースや KOBE Journal といったネットニュースでも取り上げられ、

まちの歴史とこれからの変化について、多くの方々に知っていただくことができました。令和7年度には、今回横断幕に掲載した歴史年表で紹介した内容をメインに、相生橋周辺のまちあるきを楽しんでいただくためのパンフレットを作成し、今夏もしくは今秋にまちあるきイベントを開催するべく、現在企画案を検討しているところです。2025年7月発行のタウンニュースで、具体的な時期などについてはご紹介できようかと思っておりますので、皆さんどうぞお楽しみに。

歴史を学ぶと、元町エリアの奥深さや魅力がじわーっと体に沁み込んでくる感じになります。この10年で元町エリアにはたくさんの分譲マンションが供給されて、新たな元町住民が一気に増えました。そんな新・元町住民の方々に、是非ともまちの魅力を高める取り組みに参加していただけたらと願っています。まちあるきイベントは、私たちの仲間探しの機会でもありますので、興味を持たれた方はぜひハーバーロード・ワーキングに飛び込んでください！



こんなことがありました。

川西陸隆

神戸元町商店街連合会事業部会広報部

モトマチモダンガールは、神戸・元町の魅力を再発見 PR するプロジェクトで元町通150年を記念してスタート！かつてこの元町を優雅に闊歩したモゴ&モガのムードやカルチャーを現代でも楽しもうと元町商店街の店主達が集まり仲良く楽しく活動してます！モガのロゴマークを初めて見た時これはみんなで一緒に楽しめる空間が生まれる予感がしました。元町通150年記念感謝祭でタペストリーを掲げて、夜市では揃いのTシャツでグッズ販売。魅力再発見をテーマにしたZINEの発行やモダン写真展。オリジナル商品開発する個店も増え始め布引ハーブ園でポップアップも開催し着実に広がっていきます♪

元町は地元の人にとって愛と誇りを感じる街。他所から来られた方もどこか上品なこの街のムードに調和するのが楽しいようで。

ボクは家に帰ると土にまみれて農業を楽しんでるけど元町に来たらモトマチストになります笑

きつと昔も普段は普通だけど元町に行くために変身したモゴ&モガが大勢いたんじゃないかな。

いいじゃない！それがこの街のポテンシャル！みんな元町で"モダっちゃん"やうぜ！"



ぶ・ら・ぶ・ら・ら・こ・か！

今も昔も、元町商店街を、ブラブラ

その昔、筆者が小学生だった頃、両親とよくこの商店街を歩いたものです。各丁のアーケード下の路も色々思い出があります。その時代は住宅も店と一緒にあり、お店を訪ねては、一緒に昆虫採集に山へ行ったりしました。そうです。ハイカラなお店の奥に純な住宅がありびっくりしたものです。住宅地に住んでいた小学生の筆者は環境に違いについていけませんでした。でも、うらやましくもありました。隣がケーキ屋さんて、いいなあと思っていました。今もそのお友達のお店は営業していますが、お友達は住宅地にお引越してしまったので、小学生だったころのように、気軽に「こんにちは！」と、訪ねていけなくなりました。

当時、そのお友達のお店は西元町にあったので、三越に隣接していたと記憶しています。三越には屋上やあちこちに、石彫の動物達がおかれていました。当時、他の百貨店になかった設えだったので感心していました。このさっすがの展示技術が今も引き継がれています。商店街の1〜6丁目アーケード下には、沢山の立体作品が展示されています。探しながらの元ブラは粋なものだとも思います。

宮崎みよし みよしプランニング



ファサード保存あれこれ

久保田淳司 ディーオーケープランニング 神戸LAB 代表/一級建築士/インテリアコーディネーター

阪神淡路大震災から30年を迎え哀悼の思いと共に愛着のあった多くの建物が失われたことに改めて残念な思いを抱いています。ただその後も、地震に耐えた歴史的建築物が経済合理性のもと失われました。我々も保存活動に取り組むことがあります、その都度難しさを感じます。建物所有者にとって資産や物

的資本である以上、保存により得られる対価がなければ、ましてや代償を払ってまで公益に資することができない、となってしまいます。そこで折衷的に古い建物の外観を残して建て替える方法が見られるようになりました。「ファサード保存」と言われる手法で建物の更新と歴史的価値や街並み保存との両立

を図ったものです。それらを細かく見ると、古い建物の外観を壊さずそのまま残したもの、一度解体して再構築したもの、曳家して残したもの、全く新しい材料で再現したものなど様々です。今回は神戸にある「ファサード保存」された建物を見てみます。



神戸地方裁判所庁舎
ハーフミラーのカーテンウォールで増築部分の存在を消した、草創期のひとつ。



旧三菱銀行三宮支店
神戸朝日ビルに隣接する三菱銀行はファサード保存とならず。柱頭のオーダーだけが保存される。



みなと元町駅(旧第一銀行神戸支店)
同じ設計者による東京駅舎はこちらの6年後に完成。赤レンガ部分と後ろの建物は別々。



海岸ビル(旧三井物産神戸支店)
海岸通りの町並みを守る。損保ジャパン横浜馬車道ビルに続く「腰巻ビル」の原型。



神戸税関本館
狭義ではファサード保存と言いが難いが増築部分のデザインを調和させたとした好事例。



ザ・パークハウス神戸タワー(旧三菱銀行神戸支店)
珍しいマンションでの事例。ファサードに使われていた石材を「生け捕り」し忠実に再構築された。



神戸朝日ビル(旧神戸証券取引所)
古い建物の形だけを新たに再現。高層部と低層部との調和に海岸ビルからの進歩を感じる。



居留地38番館(旧シティバンク神戸支店)
神戸税関本館と同様。震災時、近隣の大興ビルは被害が小さく見えたがこちらは解体された。



阪急神戸三宮駅
一度撤去したファサードを再現。石造りの建物に比べ再現が容易。第一勧銀神戸支店ビルは失われた。



〈若きポーランド〉 —色彩と魂の詩 1890-1918

会場: 京都国立近代美術館
[京都市左京区岡崎円勝寺町]
会期: 2025年3月25日(火)~6月29日(日)
開館時間: 10時~18時
(金曜日は20時まで会館*入館は閉館30分前まで)
休館日: 月曜日(ただし、5月5日は開館)
公式サイト: <https://youngpoland2025.jp/>

オルガ・ボズナンスカ《菊を抱く少女》1894年 油彩/厚紙
クラクフ国立博物館蔵

パウル・クレー展 —創造をめぐる星座

会場: 兵庫県立美術館
神戸市中央区脇浜海岸通
1-1-1[HAT神戸内]
会期: 2025年3月29日(土)~
5月25日(日)
開館時間: 午前10時~午後6時
*入館は閉館30分前まで
休館日: 月曜日(ただし5月5日は開館、
5月7日(水)は休館)

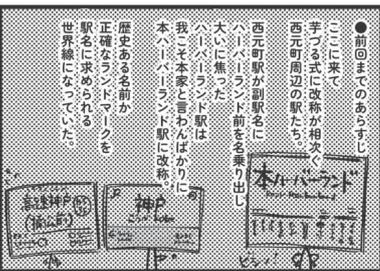
公式サイト
<https://www.ktv.jp/event/paulklee>

パウル・クレー《デュニスの赤い家と黄色い家》1914年
パウル・クレー・センター

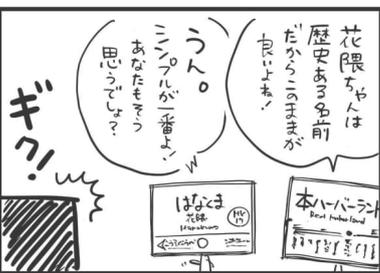
読者プレゼント

観覧ご希望の方は、住所・氏名・年齢・本紙への一言を添え、本紙編集部までハガキでお申し込みください。先着順で3名の方にペア招待券をお送りします！

次は「駅名ちゃん」



※このマンガはフィクションです!! 実際の駅名とは関係ありません!!



クリーン作戦

栄町通クリーン作戦

毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



左から

1月10日、2月14日、3月14日

参加企業

㈱KKテクノ、神明ホールディングス、神明倉庫㈱、新光明飾㈱、兵庫県信用組合 広島銀行、佐野運輸㈱、神戸市まち再生推進課、こうべまちづくり会館

ハーバーロードクリーン作戦

エスタシオン・デ・神戸



左から

1月8日7名

2月20日6名

3月5日4名

おそうじ便り

ネットトヨタ兵庫㈱ 2月5日27名



小春日和や寒風の中での、落とし物・忘れ物集めが終わりました。春の風が光ります。なくされたものは、皆様のお手元に届きましたでしょうか。7年ぶりに行われる5月25日(日)の楠公武者行列では、ハーバーロードも巡幸の経路となっています。騎馬武者・騎馬女房等の皆さんの馬上からの光景や、観賞に来られる方々に、ハーバーロード周辺はどのように映るのでしょうか。巡幸される方々の歩みや馬の蹄にも優しくと、うれしいですね。

元町みなと通信 file.2

司馬遼太郎の「陳徳仁氏の館長室」

(神戸華僑歴史博物館)

安井三吉 神戸華僑歴史博物館名誉館長



KCCビル：南京町西門を南へ。

「エレベーターを七階で降りると、そこが館長室だった。」と司馬遼太郎は書いています。思わず、川端康成の『雪国』冒頭の「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。」という一節が重なる。

1982(昭和57)年7月、司馬遼太郎は『街道をゆく』の取材で、神戸華僑歴史博物館館長の陳徳仁さんに会うため海岸通3丁目のKCC(神戸中華総商会)ビルを訪れました。館長室は「七階」ではなく「十階」ですね。その時撮った写真が今、博物館に展示されていますが、司馬遼太郎を真中に、右側に陳舜臣、陳徳仁、左側に金井厚(帝国貿易)、モロゾフの皆さんが座って談笑されてい

る。10階の総商會會議室のソファと机の配置はのまま、一度覗(のぞ)いてみて下さい。なお「陳徳仁氏の館長室」は『街道をゆく』21(朝日文庫)に収録されています。

司馬遼太郎、陳舜臣、そして陳徳仁の三人はともに戦時中大阪外国語学校(現、大阪大学)で学んでいました。同窓生です。そして、司馬遼太郎は特に陳舜臣さんとは何度も対談を重ねるなど「爾汝(じじょ)の仲」でした。1924(大正13)年生まれ陳舜臣さんは「私の記憶は元町七丁目から始まる。あるいはここが私の生家かもしれない。…旧三越百貨店のならびの家で、むかいは酒造会社の倉庫であった。」(『道半ば』)と書かれていたことが、酒造会社とは「白鶴」のこと、今の博愛病院辺りです。陳さんの作品や生涯を思い浮かべながら散策されてはいかがでしょうか。



博愛病院：元町商店街西出入口前。